

## 審判勉強会報告書

<日 時> 令和7年6月14日(土)10:00~12:00 13:00~16:00

<場 所> ソルトアリーナ防府会議室1・2・3 及び サブアリーナ

<講 師> 岡本 幸(日本バドミントン協会公認審判員資格審査認定委員)

<参加者> 83名



<内容>

~10:00 受付

10:00~12:00 講習 講師紹介の後、「ルール教本 2025」から必要な箇所を解説

○用器具について

- ・ネット中央の高さが1.524mにならない場合は、支柱根元にあるゴムねじで調整すること
- ・白帯以外はネットと同色にすること
- ・高さの計測をするときは、ネットに触れずに、前側で測ること
- ・ラケットのアンダーラップが長い場合は突起物とみなし、「ちぎってください」と指示する。

○試合について

- ・トスにおいては、スコアシートの若番が上ランクなのでコイン黄、後番がコイン銀
- ・コイン投げ上げと受け取りに恣意が入らないようにすること
- ・コイン黄が先にサービスやエンドを選べるが、コイン銀にも残りを選んでもらうこと
- ・ファイナルゲームで規定通りにエンドを変えなかった場合、速やかにエンドを変えるがインターバルは取れない。スコアも現状のまま
- ・サーバー、レシーバー共に過度な遅延は「フォルト」にする場合がある。これに関しては、事前審判会議でレフェリーの指示を仰ぐこと
- ・サービス時のラケット横振りはフォルトではないが、徐々に前に出して再び後ろに引いた場合はフォルト
- ・サーブ&レシーブ時の後ろ足浮き、ラインを踏む、靴紐がラインに触れる等のフォルトはよくあるので注視すること
- ・サーバーは回転を加えずにシャトルを放し、ラケットで最初にシャトルの台を打つこと
- ・レシーバーの「待った」サインは長すぎると遅延行為となる。ジャッジは事前審判会議で共通認識しておくこと
- ・主審はインターバル中に気を抜かず、汗や水分をコート内に散らしたりシャトルの細工をしたりしないかに注意
- ・ネット上にあるシャトルを打つのはフォルトではなくなった。(ルール変更)
- ・線審は自分のエリアのみのジャッジをする。従って主審が見るべきセンターラインがアウトでもバックのサービスラインに入っていればインを示す。この時、主審とのアイコンタクトやそぶりで「アウト」を伝えることができるとよい。
- ・「レット」は速さが肝心。
- ・選手や監督・コーチが何かを訴えに来たときは、まず「質問ですか？抗議ですか？」と落ち着いた声で対応するとよい。

- ・線審は「アウト」、主審は「アウト、レット、フォルト」を短く大声で発声すること
- ・不品行な振る舞いにより試合の中断が起こりそうなときは早めにレフェリーを呼ぶ。レフェリーは赤い服を着ている。

12：00～13：00 昼食・休憩

13：00～15：45 防府市レディース連盟練習会を利用して実技（主審、サービスジャッジ、線審）

○コイントス、マッチを開始するためのコール、インターバル、チェンジエング、ゲーム・マッチの終了コールを実戦練習した。

○プレーヤーにはゲーム中に取えてサービスフォルト、レシーブフォルトをしてもらい、審判のサービスジャッジスキルをみがいた。

○線審の大きな動きと発声、主審とのアイコンタクトを心掛けて練習した。

15：45～16：00 片付け・あいさつ・閉会

#### <感想>

- ・参加者多数で、急遽会議室1を追加使用するほど盛況だった。山口県レディースの皆が、全日本レディース大会を成功させたいとの思いの表れだと感じた。
- ・講師の岡本先生は、審判員資格取得時や審判実践のエピソードをふんだんに盛り込んでお話しくださり、試合中にどこをどのように見ればよいのかがとても分かりやすかった。また、勉強会中にふと漏れた参加者の呟きを逃さず聞き取り応じてくださった。
- ・午後の実戦練習では、「習ったけれどすぐにはできない」ことを実感した。審判をする際フォルトの判断基準を明らかにしておくことはプレーヤーのためであるので、機会を捉えて慣れていきたいと思った。

報告者：室田弘子（防府市レディース連盟）

